

水が造り出す風景

この公園の山麓には、層雲峡、天人峡などの渓谷や、然別湖など、水が主役となる景勝地が多い。

ちゅうじょうせつり
柱状節理

層雲峡や天人峡の両岸の岩壁は、岩に規則的な割れ目ができ、多角形の柱が連続して立っているように見える。この現象を柱状節理という。層雲峡や天人峡を作る岩石は溶結凝灰岩で、噴火の際に噴出した火碎流に含まれていた火山灰や軽石などの物質が固まってきたものである。火碎流によって地表に現れた噴出物が厚く積もると、その熱で物質が溶け、それ自身の重量によって圧縮され、密度の高い岩石ができる。これが溶結凝灰岩である。地表の岩石が冷えると、収縮するため岩に割れ目ができる、それが地中まで伸びてこのような柱状節理ができる。

そううんきょう
層雲峡

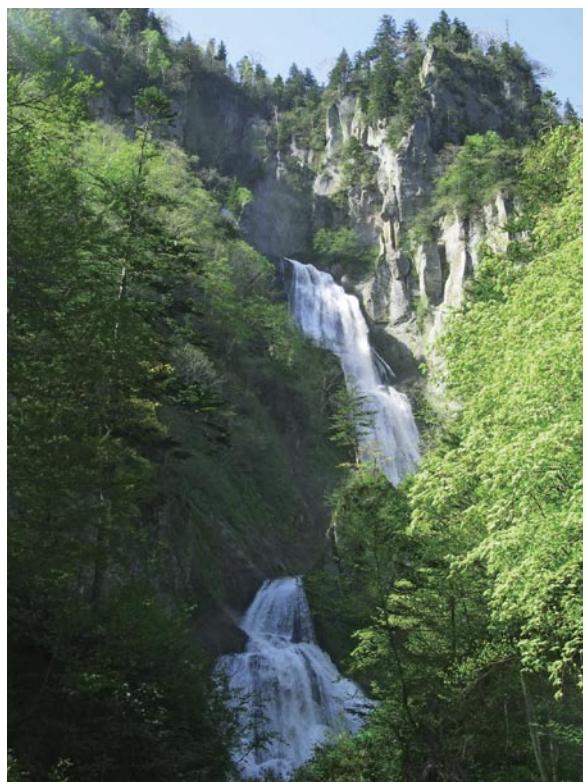
石狩川が大雪山の東側を抜けるところにある深い峡谷である。大雪火山の火碎流が堆積した台地を川がえぐり取って生まれたもので、これだけの厚さに噴出物を堆積させた噴火の大きさと、それを削り取った水の力を見ることができる。両岸には溶結凝灰岩の柱状節理が連続し、流星の滝、銀河の滝などの滝がかかる。また、上流には大函・小函の景勝がある。

しかりべつこ
然別湖

この国立公園でただ一つの大きな自然湖沼で、水面標高約800m、面積約3.5km²の貧栄養湖である。成因については、1万年以上前に活動していた火山が川をせき止めてできたとする説と、カルデラ湖であるとする説がある。湖面は12月中旬からほぼ半年結氷する。周辺を森林に囲まれた環境にあり、南岸には白雲山と天望山がある。なお、然別湖の東方には小さな東雲湖があり、然別湖南岸を通る歩道が通じている。また、南方の東ヌプカウシヌプリ周辺の岩が多く風穴のある地帯には、標高は低いがナキウサギが生息している。風穴から吹き出す冷たい風が、一帯に高山に似た寒冷な気象条件をもたらしているためである。

てんにんきょう
天人峡

大雪山の西麓にあり、石狩川の支流、忠別川が作った峡谷である。岩質も成因も層雲峡と同様、大雪火山の火碎流に起因する溶結凝灰岩で、柱状節理が連続し、落差270mの羽衣の滝と、幅の広い敷島の滝がかかる。この周辺の森林は、洞爺丸台風(→p11)による被害が比較的少なく、見事な林相を保っている。



流星の滝・銀河の滝

水瀑

冬の大雪山は、すべてが雪と氷に覆われる。層雲峡に懸かる多くの滝も凍りつく寒さである。

Column 旭岳の雪の結晶



北海道大学教授の中谷宇吉郎(明治33(1900)～昭和37(1962)年)は、顕微鏡で見た雪の結晶の美しさに魅せられて雪の研究の道に入り、結晶の分類を行った。また、人工雪の研究から、結晶の生まれる条件を世界ではじめて明らかにした。その研究フィールドになったのが旭岳である。低温で清浄な大雪山の雪は、理想的な結晶構造を雪洞にこもって研究する中谷に見せたのである。